

## 運営委員 故前原於矢子さんを偲んで

広島日豪協会会長 永野正雄

当協会の運営委員として長い間ご活躍頂いた前原於矢子さんが昨年お亡くなりになりました。前原さんは「アカシア(ミモザ=ワトル)の花を愛する会」の代表を務めておられました。

ご承知の通り、アカシアの花は黄色の房状の花を咲かせるマメ科アカシア属の総称です。桜よりほんの一定早く春の訪れを告げてくれる花で、羽毛のような明るい黄色の花と香水にも使われる優しい香りが人気です。アカシアには色々な種類がありますが、総じて原産地のオーストラリアではワトルと呼ばれ、花言葉は友情です。



前原さん(中央)が贈ったアカシアを囲んで(2015年1月)

1983年平和大通りに植えられていたアカシア=ミモザに初めて花が咲き、その華麗な美しさに感動した仲間20数名と立ち上げたのが「アカシアの花を愛する会」で、前原さんはアカシアのことを「永遠の感動をふりそそぐ花」と呼んでいました。



同会は、キャンベラにある国立植物園で毎年開催されるワトルディ(アカシア祭り)に幸せて黄色いリボンを贈呈し、オーストラリアから送られてくるアカシアの種子の育成・配布等の活動をされていましたが、当協会の存在を知り、TSSが当協会の事務局を担当した頃、前原さんは入会され、オーストラリアとの友好親善に貢献されました。

数年前、当協会が主催するイベントに何か黄色いものを身に着て参加しようと呼びかけ、忘れた人には受付けてアカシアの黄色いリボンを配りましたが、そのリボンを作って頂いたのが前原さんです。

穏やかで、気品があり、凛とした笑顔で皆に接していた前原於矢子さんのお姿にもうお目にかかれたいのは誠に残念ですが、天国から当協会の発展を見守って下さいますようお願いいたします。

新入会 オージー会員

- シェーン・オギルビーさん、本間智美さんご夫妻
- オーストラリアン・デビスさん、北畑有紀乃さん

新入会 法人会員

- 広島総合警備保障 株式会社 (ALSOK)
- 広島市安佐南区西原3-34-3

お悔やみ申し上げます

- 運営委員
- 前原於矢子氏 (アカシアの花を愛する会 代表) 2022年8月6日逝去 82歳

## 編集後記

新型コロナウイルスの感染者数の減少傾向、マスク着脱の個人判断、来月には感染症法上の位置付けの「5類」への引き下げ、そして、繁華街の賑わいや外国人観光客も目にするようになり人の往来が活発になっていくと感じます。オーストラリア・デーを祝う会もそうですが、ニュースでも3年ぶり、4年ぶりといったナレーションもよく聞きます。終息したわけではないので履みは禁物ですが、某旅行会社のキャッチフレーズらしく「いいよオーストラリア旅行はじめる?」先立つものがあればですが…

(広島日豪協会 大藤 潔)

会報ひろしま日豪協会

発行日 2023年4月

発行所 広島日豪協会

〒734-8585 広島市南区出汐2-3-19 ㈱テレビ新広島 総務部内  
☎ 082-256-2200 FAX 082-253-1203 Eメール nichigo@tss-tv.co.jp

会報

No. 48

2023年4月

ひろしま  
日豪協会

HIROSHIMA JAPAN AUSTRALIA SOCIETY

2023年  
2月9日

## 3年ぶりの開催 オーストラリア・デーを祝う会

広島日豪協会の「オーストラリア・デーを祝う会」が、ANAクラウンプラザホテル広島で開催されました。コロナ禍で中止が続く3年ぶりの開催となりましたが、会員・同伴者など総勢71名が出席。久々の開催に、会場は賑やかな雰囲気には包まれていました。

初めに永野正雄会長が挨拶し、「久しぶりにオーストラリア・デーを祝う会が開催できて、安心している。5月に新型コロナウイルスが「5類」に移行し行動制限もなくなるため、協会の活動も活発化できるのではないかと」期待感を示しました。また、昨今の日豪関係にも触れ、「昨年10月に岸田首相がオーストラリアのバスでアルバーニ州首相と日豪首脳会談を行い、安全保障や資源の安定供給をお願いするなど日本とオーストラリアの関係はますます緊密化している。協会としても、活動を通して日豪の関係性を深めていきたい」と述べました。



続いて挨拶に立ったトレバー・ホロウェイ駐大阪オーストラリア総領事は、「オーストラリア・デーは歴史を未来に伝え、再確認するオーストラリアの建国記念日であり、私達にとっては日豪関係の親交を深めるのに良い機会だ。ご出席の皆さんお一人お一人が、様々な形で日豪関係を支えてくださっていることに大変感謝している」と述べ、オーストラリアのビール「クーパーズ」で元気よく乾杯しました。

会のお楽しみはミニコンサート。ゲストは、ヴァイオリニストの平原啓吾さん、ピアニストの実徳陽子さんのお2人で、オーストラリアの楽曲から、子どもたちにも人気の「鬼滅の刃」のテーマソングまで、演奏とトークで会場を大いに盛り上げました。また、去年12月に新たに入会した尾道市のシェーン・オギルビーさん、本間智美さん夫妻がご挨拶。温かい拍手で迎えられていました。



パーティーの最後には山谷茂副会長が登場し、「現在、日本の発電用の燃料はオーストラリアから輸入しているものが多く、我々の電力の安定供給に繋がっている」と近年の電力事情を述べ、「オーストラリアと日本の持続的な発展のためにも、我々の協会が架け橋となるよう期待している」と締めくくりました。

オーストラリアの最新  
情報  
募集中!

日豪の交流に関するニュース、オーストラリアへの旅行記などを募集しています。身近な情報をお寄せください。

## 「これからも日豪の架け橋に」

サザンクロス大学講師・ジャパンセンター会長 マクラレン温子さん来広

当協会が活動に長年、ご協力頂いているオーストラリア・サザンクロス大学講師のマクラレン温子さんが来広し、永野会長、法人会員・島田工務店の嶋田修作さん・順子さん夫妻と意見交換をしました。

マクラレンさんは、2003年にサザンクロス大学音楽学部の学生・卒業生のコーラスグループ「イザベラ・アカペラ」を引率し、チャリティコンサートツアーで来広して以来、広島日豪協会と交流を続けています。この活動が、リスモア市の大学構内に第二次世界大戦後の日豪間の和解を呼び掛けたトニー・グリーン神父の功績を記念する「ジャパンセンター」の設立につながりました。

意見交換で「イザベラ・アカペラ」の来広時の話に及ぶと、メンバーの近況についてマクラレンさんに質問が相次ぎました。嶋田さん夫妻は「イザベラ・アカペラのお世話を通じて交流ができたのはいい思い出」と当時を懐かしみ、永野会長も「皆さんのご苦労があって広島日豪協会が活気付き、今日がある」と、終始和やかな雰囲気でお話が進みました。マクラレンさんは「これからも日豪の架け橋となるよう尽力したい」と述べ、今後も日豪関係の交流、発展のために協力していくことを確認しました。



マクラレン温子さん、永野会長、嶋田修作さん、嶋田順子さん

## オーストラリアの人気スポーツ「オージールールズ」

広島県瀬戸内高等学校教諭 アンソニー・ダグラス

“ Aussie rules (オージールールズ) ” と呼ばれるオーストラリアンフットボールはオーストラリアで最も人気のスポーツです。生の試合観戦もテレビ観戦も国内では他のどのスポーツよりも人気があります。しかし、オーストラリア以外ではあまり知られていません。敵や味方の肩を踏み合にジャンプするなど、初め見る人にとっては危険でルールもないように見えるかもしれません。ラグビーやアメフトとは違い、選手は拳でボールをパンチして他の選手へボールを届けなければいけません。また、15m以上ボールを持って走ることはできず、1度ボールを地面にバウンドさせる必要があります。



実は日本にはオージールールズのアマチュアリーグがあり、より多くの人に基本的なルールを知ってもらい、スポーツについての関心を高めることを目標に、選手たちが日本の学校へ教えに行くなど、日本でもオージールールズを広めるための活動をしています。



今年1月16日、リーグから2人の選手が私の勤務先である広島県瀬戸内高等学校へやってきました。2クラスの生徒達が体育の時間にこの新しいスポーツ文化について学びました。オージールールズについて聞いたことがある生徒は1人もいませんでしたが、皆それぞれ真剣に一生涯ルールを学んでいました。時間が限られていたこともあり、基本的なパスやキックの仕方、そして点数のシステムについて主に学びました。生徒全員がとても楽しんだようで、非常に良い経験になったと感じています。はるばる広島まで来てくださったAFLジャパン(日本オーストラリアンフットボール協会)の皆さんと、このような機会をくださった日豪協会に心より感謝しています。

## 豪流POST 14 本間智美さん

～人生観を大きく変えたオーストラリアとの出会い～



～今回ご紹介する本間智美さんは、去年12月にオーストラリア人の夫、シェーン・オゴルビーさんと入会されました。～

オーストラリアとのご縁は、転職先の輸入商社でオーストラリア担当に任命され、お客様を連れて初めて出張に行った事から始まりました。日本を出て初めてオーストラリアを見たとき、とても広大な空と大地に、日本での日々の悩みがとてもしらばけに思え、無限の可能性に満ちた世界ととても近くなった体験が、私の人生観を大きく変えました。

その後、仕事で様々な国にも行きましたが、オーストラリアの「No Worries!」文化が私には一番合っています。オーストラリアの人々のおおらかさや優しさ、でもすぐに怒るけど(笑)、すぐに笑って。人間らしい付き合い合いです。6年間で、生きたいように生きなさいと、背中であえてもらったようにも思います。

商社を辞め元々の職業である建築士に戻ってからは、縁遠くなってしまったオーストラリアでしたが、グラフィックデザイナーのShaneと出会い、オーストラリアに家族ができたことは想定外の喜びです。

私は新潟出身で、ご縁があり尾道に2021年春に移住してきましたが、尾道に限らず、広島の皆様はとても明るく、私たちを温かく受け入れてくださっています。夫自身も友達が増えて、まるで地元民のように尾道の生活を楽しまれている様子です。

夫の出身地はSydneyから225km南に行ったUlladullaという町で、夏はサーフィンなどのバケーション先として賑わう、海に隣接した町です。瀬戸内の風景と多少似ている気がしていて、私たちが広島を肌感覚で気に入っているのはその理由もあるのかもしれません。

尾道では観光まちづくりのお手伝いもしていて、私の移住者目録、夫の外国人目録も併せて、広島のみならず世界の皆さんにお届けできたらと思っています。



## 「オーストラリア大全 - とことん知ろう -」 (大学教育出版・3,800円+税)

元南オーストラリア州政府駐日代表 田中 豊裕

日本の食糧自給率は39%と大変低く、エネルギーの自給率に至っては11.8%で先進国の中で最低のレベルになっています。どちらも海外、特に豪州に大きく依存しているのが現状です。鉱物、エネルギー、食糧資源などの最も重要供給国に加えて、昨今はアジア太平洋地域の安全保障分野でも日豪は強力な相互協力関係を確立しています。豪州は日本にとって不可欠なパートナーです。



しかし残念ながら日本ではその重要性についての認識度が高くありません。そこで、より多くの人に豪州の全容を知ってほしいという願いから、今回豪州すべてを一冊で網羅する書籍として『オーストラリア大全』を上梓いたしました。この機会には是非目を通していただけば幸いです。

